春風秋雨

江利川毅 県立大理事長

今年を振り返る①

民信なくば立たず

小泉総理大臣が厚生大臣時代に私は介護保険法案の国会審議の責任者としてお仕えし、内閣総理大臣時代には内閣府の官房長、事務次官としてお仕えした。小泉総理がよく揮毫される言葉は「無信不立」である。

この言葉の出典は「論語」である。弟子が孔子に政治の要諦を尋ねる。孔子は「食糧を十分にし、軍備を十分にし、人民に信義を守らせるようにすること」と答える。どれか一つが無理な時はという質問に「軍備をあきらめる」と答える。さらにもう一つ無理な時はという質問に「食糧をあきらめる」と答え、「民無信不立(民信なくば立たず)」と言う。人々に信義の心がなかったら社会は成り立たないという意味である。今年を振り返ると、この「信」が大きく損なわれた1年であったように思う。

■残忍なテロ

信義の心、人との信頼関係、そういうものを根こそぎ覆すような事件が起こった。IS(「イスラム国」)によるパリ同時多発テロ事件である。無辜の民を銃で殺害するなどあまりにも残忍な事件である。フランス、アメリカ、ロシアなどがISへの空爆を強化しているが、隣国トルコがロシアの爆撃機を撃墜するなど、関係国の信頼関係は複雑な要素が入り込んでいるようだ。

また、パリでのテロ実行犯の中にはフランス国籍を持つイスラム系移民も多くいた。移民の受け入れは、経済的側面、人道的側面から実施してきたものと思うが、信頼が裏切られたとなると多くのことが振り出しに戻ってしまうのではないだろうか。

■科学技術の悪用

フォルクスワーゲンが不正なソフトを搭載して排ガス規制を逃れていた。科学技術で世界のトップにあるドイツで、その科学技術が悪用された。それも会社ぐるみである。これも信じられない事件であった。不正を確認したアメリカ当局は高額な制裁金を課す可能性が高いと言われている。1千万台を超える対象車両に改善措置を実施しなければならない。訴訟、その他でも多くの費用が掛かるだろう。虚偽はいつか発覚する。信頼を裏切るとどういうことになるのか、フォルクスワーゲン社の行く末を注視したい。全ての企業が同じ轍を踏まないよう心してもらいたいものである。

■住のモラル失墜

しかし、日本でも信用を損ねる大きな事件があった。大型マンションの基礎となる杭について、杭の深度や杭を固定するためのセメント量に係るデータの改ざんが行われていた。横浜のマンションが傾いたことによって発覚したものだが、業界の調査によると改ざん例は公的な施設なども含め多数に上るようである。

住居は多くの人にとって一生で最高額の買い物である。この会社が建てたものならと信用して買ったマンションが、素人には見えない部分でデータの改ざんが行われていた。業界のモラルも地に堕ちたものと思う。今回の事件の根本解決には関係者も多いため時間がかかると思うが、全ての関係者が納得する道を歩んでもらいたい。

■CPウィルス

サイバーテロも「信」を壊すものである。世界中でサイバーテロが蔓延しており、どの国も対策を講じ未然に防ぐ努力を続けている。しかし、巧妙化し続ける手口に常に的確に対応することは極めて困難である。日本年金機構へのコンピュータウィルスによる不正アクセスによって、百数十万の個人情報が流出した。

マイナンバー制度を始め多くの情報がコンピュータ管理される時代になる。既に基幹的な経済活動はコンピュータネットワークに依拠している。行政も政治も同様である。犯人が見えにくいことが無責任な行為へのブレーキを弱めているのかもしれないが、断じて許されないことである。すべての人が己の心に良心の灯をともし続け、節度ある行動をとって欲しいものである。

■利と信の両立

「信」を蔑(ないがしろ)にすること、それは残念ながら、社会のモラルの低下を示すものである。モラルの高揚は一朝一夕にはできない。幼いころからの家庭教育、義務教育や高等教育における教育指導、社会人としての自己研鑽、地道な積み重ねが必要である。

本県の偉大な先達である澁澤榮一翁は、その著「論語と算盤」の中で「利益と信義の両立」を述べている。その心に学んでいかなければと思うのである。

(次回は28日付)